

# 超高層ビル林立 武蔵小杉を見学

## 景住ネット全国集会

開発問題に立ち向かう全国の住民運動団体などで組織した「景観と住環境を考える全国ネットワーク」（景住ネット）が2日、全国集会の一環で、再開発の進む武蔵小杉（川崎市中原区）の現地見学を行った。約30

人が参加し、林立する超高層ビルを巡りながらまちづくりの在り方を考えた。

全国集会は1日から開催。ことしは「なぜ空き家800万戸時代に超高層乱立なのか」をテーマの一つに掲げて講演や討論を行っており、その代表例として武蔵小杉を見学した。

景住ネットによると、武蔵小杉周辺では既に超高層

ビルが18棟完成。さらに4棟が計画中で、これら22棟の計画人口は約2万9千人（約7900戸）に上るという。ビル風などの影響を不安視し、最近では建設計

画をめぐる住民の反対運動も起きている。

現地見学では、反対運動に携わる住民団体が案内役を務め、再開発計画の概要やまちの風景の変遷などを

超高層マンションの建設予定地を見学する参加者。奥にはビル群が望める  
＝川崎市中原区



説明。参加者は上空を見上げながら、「これは「小杉パブル」だ」「もうかる以上、デベロッパーの開発意欲はまだまだ収まらないだろう」などと感想を口にして

いた。  
（高田 俊吾）